



知のネットワークニュースレターを創刊します

この度、中間貯蔵・環境安全事業株式会社で「知のネットワークニュースレター」を定期的に発行することになりました。

復興を取り巻く環境は今、変化を迎えています。

今後、中間貯蔵施設の竣工が続き、施設や緑地等の維持管理事業が本格化します。

また、減容技術の開発や最終処分なども控えており、これからが重要です。

知のネットワークは、主に復興に向けて技術や知恵を結集していくための活動を年2回の会合を通じて取り組んでおりこの秋に3年目を迎えます。

8月の知のネットワーク会合は、再び対面で、福島県内で開催されることも決定しました。

これらを機に、本ニュースレターで関係者の皆様方にむけて環境再生と復興についての幅広い情報を現地の最新情報とともに発信することにより知のネットワークを知っていただくとともに、産官学の関係者の皆様が分野を超えて連携し、福島の復興に資する取り組みがより一層進むよう、有益な情報を発信していければと思います。

第一号の発行によせて

復興に向け、除染が第一幕、除去土壌を一括管理する中間貯蔵が第二幕、最終的に福島県外での最終処分をめざします。ピーク時には毎日ダンプ3千台が除去土壌を輸送しておりましたが、昨年度で中間貯蔵施設への搬入が概ね完了しました。

これからは、中間貯蔵施設が現実に姿を現してきます。その管理・運営の状況をニュースレターでもお知らせします。

その将来像や復興につながる取組はどうか？最終処分へのカギとなる再生利用の現状と課題は何か？

自由で活発な議論や連携を生みだしながら、次のステージに挑戦していきたいと思っています。

中間貯蔵・環境安全事業株式会社

代表取締役社長 小林正明



中間貯蔵・環境安全事業株式会社
知のネットワーク 運営チーム

知のネットワーク会合を郡山で開催します

中間貯蔵事業における技術実証の成果発表会として知のネットワーク会合を8月25日に福島県郡山市のけんしん郡山文化センターで開催することに決定しました。

2020年秋から年2回実施している本会合は今回で6回目となります。今までコロナ禍に見舞われ、東京会場とオンラインを中心に行っていましたが、

今回、初めて福島県内の実会場、対面にて開催します。

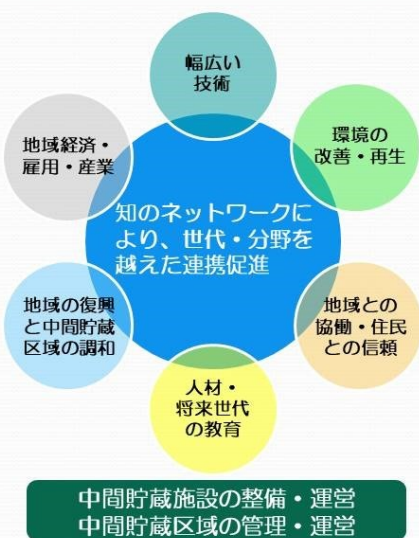
地元で復興に取り組んでいる方に直接参画をいただき、技術実証試験を始めとした技術開発の状況を踏まえ、長い中間貯蔵事業の期間を見据えた地域の復興の今後の展望について、一緒に考えていければと思います。



第4回 知のネットワーク企画セッション

環境放射能除染発表研究会

知のネットワークが目指すもの



知のネットワークでは、どのようなテーマについて、どのような活動を行っていくか？【考えられる活動のカテゴリ】

- ・ 世代を超えた自由な意見や発想の交換
- ・ 異なる取組や専門分野間の議論の促進
- ・ 地元の復興情報の共有と復興への貢献
- ・ 技術実証事業の成果の共有・活用 他

申込みはこちら



8.25 (木)
14:00-17:00

けんしん郡山
文化センター

福島県郡山市堤下町1番2号

国家公務員総合職の初任行政研修を浜通りで実施しました

5月下旬から7月初旬まで、浜通り(大熊町・双葉町)で国家公務員総合職初任行政研修が行われました。

浜通りの中間貯蔵施設等で初任者研修が実施されるのは今回が初めてで、大熊町の中間貯蔵工事情報センター・中間貯蔵施設等で研修を受けた後、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館等の見学がなされました。

のべ約750人もの行政官の卵が地域全体の復興に着目しています。今後の活躍が楽しみです。



中間貯蔵・環境安全事業株式会社
知のネットワーク 運営チーム